カトリック
広島教区報

No. 82

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

広島市中区幟町 4-42
広島司教館内
TEL (082)221-6017

11月23日に『2010広島教区代表者会議』を開催します

†キリストの平和

１１月２３日(火･祝)に､「２０１０広島教区代表者会議」を開催致します。
２００２年に、ヨハネ・パウロ二世の呼びかけ（使徒的書簡「新千年期の初めに」）に応えて、「広島教区大会（沖に漕ぎ出せ～輪を拡げていく共同体～)」を開催しました。そして、２００５年には「広島教区代表者会議」を行い、２００６年４月に「宣教司牧に関する司教宣言『平和の使徒となろう』」を発表しました。
前回の代表者会議から５年が経過しようとしている今、その歩みを振り返って分析し評価するとともに、現状を確認また共有し、これからの広島教区の福音宣教活動の方向性を見直し、展望を開くために「２０１０広島教区代表者会議」を準備しています。
テーマは「きょうどう　～今、神さまの呼びかけにこたえて～」に決まりました。
お互いの立場を超えてきょうどう（共同・協同・協働）し、イキイキとした信仰共同体を作って行く必要があることの想いが込められています。
この教区代表者会議で話される課題は、私たちのさまざまな活動、取り組みの中で優先的に取り組むべきことであり、これからの広島教区が進むべき方向性について皆さんで共有し、可視化していくことが期待されています。
広島教区民の皆さまは、どんなにささいなことでもご自分にできることを探し、それを神からの呼びかけとして受けとめ、実践していただければ幸いに思います。
今日１０月２４日は「世界宣教の日」です。
代表者会議まで、ちょうど一ヶ月にあたるこの日のミサの中で、また、これからも色々な機会に、広島教区民が心をひとつにして『２０１０広島教区代表者会議』が聖霊の力強い導きに満たされ、豊かな実を結ぶことができるよう祈りましょう。

聖霊の交わりの中で、アーメン。

２０１０年１０月２４日「世界宣教の日」
広島教区長　ヨゼフ三末篤實　司教

2010広島教区代表者会議 開催決定
テーマは「きょうどう　～今、神さまの呼びかけにこたえて～」

上記の三末司教様のお手紙にあるように、十一月二十三日に「二〇一〇広島教区代表者会議」が開催されます。
会議の内容は、午前中の全体会において、「平和」「きょうどう」「養成」「在住外国人」の四つの推進チーム（教区レベル・地区レベル）からの報告と「代表者会議」に向けてのアンケートの報告が行われ、この五年間の評価と現状を確認します。
午後からは、A．小教区の中の「きょうどう」、B．小教区を超えた「きょうどう」、C．社会との「きょうどう」、D．在住外国人との「きょうどう」の分科会に分かれ、①信徒同士の「きょうどう」②信徒・修道者・司祭の「きょうどう」③司祭同士の「きょうどう」の視点からも出席者が意見を交換し、これから広島教区が優先的に取り組むべき課題と方向性について協議する予定です。
代表者会議の出席者は、各地区によって選出されます。これは、これからの広島教区における福音宣教活動の推進が、各地区の活性化にかかっており、各地区独自の取り組みに沿って将来を担う方々を選出していただきたいからです。
なお、司祭の出席については、各地区司祭評議会を中心として、出席希望者を募ることになっています。
教区代表者会議において話し合われた内容は、会議後に平和の使徒推進本部、教区推進チームを中心にまとめて整理し、評価分析して、最終的なまとめができ次第、教区宣教司牧評議会に提案する予定です。
皆様のお祈りとご協力を、よろしくお願いいたします。

平和の使徒推進本部

二〇一〇平和行事

八月五日（木）・六日（金）・九日（月）

肥塚　俊司　神父

平和行進

カトリック広島司教区「二〇一〇平和行事」は二つのねらいをもって計画されました。

一つは「核廃絶」、もう一つは「『韓国併合』百年」でした。

一、核廃絶をめざして

平和行事のテーマとして「Ｙｅｓ！核廃絶に向けて勇気ある一歩を！」が掲げられました。

二月に広島教区三末司教は、被爆地ヒロシマ・ナガサキの司教として長崎教区高見大司教と連名で、核拡散防止条約（ＮＰＴ）再検討会議を前に、米国大統領と日本政府、および各国首脳へあてて「核兵器廃絶へ向けて勇気ある一歩を」と題するアピールを発表しました。

アピールの意図を受けて今年の平和行事のテーマが決められ、二つの企画がありました。

一つは、平和行事のテーマと同じテーマで開かれたシンポジウムです。

金森さん、田中さん、磯さん

ＮＰＴ再検討会議が人類の未来によい実りをもたらすように精力的に活動された三人の方を講師として招きました。

オバマ大統領に広島訪問を求めて千羽鶴をワシントンに運んだ「中高生ノーニュークネットワーク広島」の金森雄司さん（広島学院高校生）。二〇二〇年までに核兵器廃絶をめざす「平和市長会議」が作成した「ヒロシマ・ナガサキ議定書」が実現されるよう取り組む「Ｙｅｓ！キャンペーン」を通して活動された被爆者の田中稔子さんと磯博夫さん。

それぞれの活動の体験を熱く語ってもらい、核廃絶への道筋とこれからの活動、そしてわたしたちへのメッセージを提案していただきました。

高見大司教

二つ目は、高見大司教とドクター・コレッキ（米国司教協議会国際正義と平和委員会事務局長）の報告会です。

高見大司教は「被爆マリア像」を携えてローマ・バチカン、スペイン・ゲルニカ、アメリカ・ニューヨークへの平和巡礼を映像（パワーポイント）を駆使して報告されました。

ハイライトは、三末司教との連名のアピールを、「被爆マリア像」に感動するパン・ギムン国連事務総長に手渡されたことです。

ドクター・コレッキは「核兵器のない世界を求めて―米国からの展望」と題して報告。核兵器廃絶をめぐるアメリカの現状を、アメリカ国民は核兵器についてどう考えているか、核の脅威に対してなにを行ってきたか、今後どんな活動をすべきかを順を追って話されました。

Ｄｒ．コレッキ

二、「韓国併合」百年

今年二〇一〇年は、日本が強制的に韓国を「併合」した一九一〇年から、百年を数えます。平和行事のテーマの一つとして取りあげました。

「写真展」を行事期間中広島カトリック会館で開催しました。長年「日韓問題」に取り組んでいる市民運動グループが製作されたもので貴重な写真がたくさんありました。

平和行事の核の一つである「被爆証言」を聴く集いで韓国人被爆者許田宋文さんが証言してくださいました。

「韓国併合」百年　写真展

平和記念公園の原爆供養塔前での「祈りの集い」の中で、対面にある韓国人原爆犠牲者慰霊碑に日本聖公会とカトリック教会の青年が「献水」しました。

「ピースウオーク」は宇品港を中心に行われました。宇品港は、一八九四年の日清戦争以来、日本が朝鮮半島、アジア大陸、太平洋地域へ軍隊を派遣する最重要基地となりました。宇品港周辺の軍事遺跡を巡り、近代日本の戦争と植民地支配の歴史を振り返りました。

ひとつひとつのプログラムは小さなものであったかもしれませんが、インファンタ・釜山・広島三教区姉妹縁組十周年に、アジアの教会との責任ある連帯をめざす広島教区にとっては非常に象徴的な価値をもつものでした。

韓国人原爆犠牲者慰霊碑に「献水」

三、平和行事のこれから

ヨハネ・パウロ二世の来日の翌年一九八二年から日本のカトリック教会は、教皇の呼びかけに応えて「日本カトリック平和旬間」を始めました。広島と長崎の事実と戦争を思い起こすのに適した八月六日から十五日までの十日間です。

広島教区の平和行事は「平和旬間」のスタートにあたり、全国から司教をはじめ多くの信者が集まります。広島教区だけの行事としてではなく、日本のカトリック教会全体の視点から見直すことも興味深いことです。

中学生・高校生・大学生・青年たちが平和体験学習・巡礼のために広島にやってきます。

これまでも豊かな実りがありましたが、これからも広島教区も含めて、平和の使徒として働く次の世代を育てていく努力をさらに強める必要があります。

平和記念公園原爆供養塔前の「祈りの集い」、「平和行進」、「平和祈願ミサ」は日本聖公会との合同プログラムですが、他のキリスト者のグループへともっと輪を拡げていくことはできないでしょうか。

平和行事は平和行事実行委員会が担当しますが、委員会の刷新・充実も急務です。広島教区全体への拡がりの中で、新しいアイデア、新しいメンバーを募らなければなりません。

そして、最も大切なことは平和行事を行うことの意味を再確認することです。

どんな行事についても同じですが、その場かぎりの「打ち上げ花火」に終ってしまわないように気をつける注意を怠らないことです。大いに反省しなければなりません。

たとえば、今年のテーマ「Ｙｅｓ！　核廃絶に向けて勇気ある一歩を！」をわたしたちひとりひとりが、日常の社会生活の中でどのように継続し具体化していく努力を積み重ねていくかということです。

現実の社会の動きの中で具体的な決断をすることは確かに痛みをともなう困難な作業ですが、文字通り「勇気ある一歩」を踏み出すことが不可欠です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ひとりのジャーナリストの質問。

「教会の中で変わるべきものは？」

マザー・テレサは答えた。

「あなたとわたし！」

教区平和推進チームより
Ｙｅｓ！キャンペーン　実行委員会終了

二〇一〇年五月のＮＰＴ再検討会議に向けて、核兵器廃絶を訴えるために、広島の市民の中で二〇〇九年七月に立ちあがったＹｅｓ！キャンペーン実行委員会は、「ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本（以下絵本）」の販売や、被爆者の方々を中心に「ヒロシマ・ナガサキ議定書（以下議定書）」への賛同署名を集める全国キャラバンなどを行ってきました。

昨年の実行委員会発足以来、広島教区内でも、絵本の販売やキャラバン隊への協力が行われてきました。広島教区平和推進チームは、今年の四月にＹｅｓ！キャンペーンの活動に協力することを選び、より積極的にその活動に関わってきましたが、五月にＮＰＴ再検討会議が終わり、実行委員会は六月末をもってその活動を終了しました。

絵本を購入してくださった方々、キャンペーンに興味を持って見守ってくださった方々に、教区平和推進チームからも感謝致します。

キャラバンが立ちあがった当初、議定書への賛同署名は全国で三百六十五でしたが、今年の六月二十五日には千百六十六の賛同署名が集まりました。全国を回ったキャラバン隊の役割は大きなものだったと思われます。絵本も一万七千冊を完売することができました。実行委員が外務省に出向き、副大臣に申し出をした結果、ＮＰＴ再検討会議で、議定書の存在と市民活動についても言及されました。

核兵器廃絶への取り組みは今後も様々な形で取り組んでいかなければならない課題です。これからも、皆様のお祈りと、ご協力をお願い致します。

広島教区青少年プログラム

広島教区では、さまざまな青少年対象のプログラムが行われている。その中から、八月に行われる三つのプログラム、「広島教区練成会」「フィリピン・インファンタ訪問」「日韓カトリック青少年の集い」について紹介する。

韓カトリック青少年の集い

第１回１９８３年～第１１回２００３年は水晶（スジョン）教会（釜山教区）と、第１２回２００６年からは南川（ナムチョン）聖堂（釜山教区カテドラル）と交流

開催は次のとおり（日本人の参加数）

1)	１９８３年	韓国	（３９名）
2)	１９８５年	日本	（６８名）
3)	１９８７年	韓国	（６８名）
4)	１９８９年	日本	（１１８名）
5)	１９９１年	韓国	（１０１名）
6)	１９９３年	日本	（６２名）
7)	１９９５年	韓国	（５５名）
8)	１９９７年	日本	（６６名）
9)	１９９９年	韓国	（６７名）
10)	２００１年	日本	（１０９名）
11)	２００３年	韓国	（３５名）
12)	２００６年	日本	（７５名）
13)	２００８年	韓国	（５３名）
14)	２０１０年	日本	（４９名）

「一番近くて遠い国、そして、過去に不幸を与えた韓国と信仰を通して新しい友好の交流を図りたい」「国際感覚を身につけさせ、青少年を大きく育てたい」という趣旨で発足した。開催は、二年ごと、場所は広島教区・釜山教区交互に行われている。

今回で十四回目（八月九日～十二日、南川（ナムチョン）聖堂とはトリック青少年の集い（旧名称は日韓合同キャンプ）は、山口県徳地と広島市で行われた。今年のテーマは「平和」、主に原爆と原爆の被害を受けながらイエス・キリストの精神で多くの被害者を救い、支えとなった永井隆にスポットを当てて、日韓の中高生七十名が広島の平和公園で原爆慰霊碑などを周り、祈りや折り鶴を奉納し、また、原爆資料館で原爆が落とされた当時の広島の惨状を見て、改めて原爆（核兵器）の恐ろしさを体験した。そして、今回の交流を通して、未来グループで平和のメッセージや平和宣言文を書き入れたTシャツを作成し、山口サビエル記念聖堂での派遣ミサの奉納で捧げ、無事に交流を終えることができた。

今後の課題

日本側の参加者が減少している。若いリーダーの育成や人材不足もあり、このまま今の状態で交流を続けるには無理がある。あと、時期的なことや場所、広島教区で司牧をしている釜山教区の司祭との連携し、小規模な交流でもよいので、続けていきたいと思う。

【お問合せ】
山口島根地区事務局
TEL 083-924-2931

フィリピン・インファンタ訪問

二〇〇四年の夏に初めて広島教区から高校生四名と荻神父、野中神父がインファンタ教区を訪問して以来、毎年八月に広島教区の中・高校生、大学生達がインファンタを訪問している。

二〇〇四年十一月には大洪水があったインファンタであるが、復興の途上にあっても、いつも私達を温かく迎えてくれるフィリピンの人達に、訪問する学生達は人と人とのつながりの大切さや、物質的豊かさの中で私達が忘れてしまっている心の豊かさ、神様の愛への感謝等を思い出して、皆大きく成長している。

滞在は、インファンタ教区ジェネラル・ナカルという町にホームステイをしている。そして、ジェネラル・ナカルのカルメル高校を訪問し、高校生達による歓迎会や交流会、一緒にスポーツやゲームをしたり、年によってはキャンプ・ファイ

ている。

また、近隣の地域の教会や修道会の訪問、女性の自立支援手工業センターの見学、大洪水で耕作不能になった田畑の復興のためのバイオ農業センターの見学、復興プロジェクトとして建設された避難村ヨハネ・パウロ二世村の見学などのプログラムもある。

今年は初めてもう一つの姉妹教区韓国釜山教区からも、司祭一名、助祭二名、神学生五名が参加し、インファンタで三姉妹教区が出会い、カトリック教会を通してのアジアの平和への使命について分かち合いがもたれた。広島、インファン

広島教区練成会

練成会は、およそ五十年前くらい前、邦人司祭がまだ少なかった時代、司祭・修道者というのは外国人のことだと思いがちな子どもたちへ司祭・修道者の召命を育むために始められた。

そのため「召命練成会」という名称で、男女別に行われていた。最終日に、カテドラルに男女の参加者全員が集い、感謝のミサを司教と共に献げていた。

十年ほど前から、男女合同で行われるようになり、司祭・修道者・神学生・ノビスたちが一緒に準備をしている。特に神学生にとって、自分の養成の場でもあり、中心になって準備し、たくさんの人たちに協力をお願いしていくことを学ぶ場でもある。

近年は青年や高校生にもリーダーとして参加してもらい、リーダー養成の場ともなっている。

現在の練成会は、広くキリスト者としての「召命」を考えることができるようなプログラムを準備している。神学生、司祭、修道者を中心に準備しており、それぞれの小教区だけでは難しくなっている中学生たちの夏の行事として、小教区を越えて多くの仲間と集えることを希望している。

練成会の参加者は小学五年生～中学三年生。八月に二泊三日で行われている。できるだけ様々な地方からも参加できるように、毎年三つの地区を廻るように会場を選んでいる。

二〇一〇年の練成会は、八月四日～六日にかけて、「平和行事初体験！－神さまの呼びかけにこたえて－」というテーマで行われた。

例年の平和行事に、教区外からの小中学生の参加は目立つのに、広島教区の小中学生が少ないという声に応えて、平和行事に参加する練成会を計画した。

今年は特に猛暑で、水分の補給や移動手段など気を遣うこともたくさんあったが、この平和行事の体験を通してたくさんのことを学んだのではないかと思う。

練成会は、普段の小教区でのキャンプ等とは違い、多くの神父やシスター、そして神学生が参加する。そこで多くの触れ合いを通して、自分自身の召命を考えるきっかけになればと願っている。

【お問合せ】
担当司祭　野中神父（倉敷教会）
TEL 086-422-0680

歩み（男女合同になってから）

１９９６年	ノートルダム清心女子大学一宮校舎（岡山・鳥取地区）
１９９７年	祇園教会（広島地区）
１９９８年	山口教会（山口・島根地区）
１９９９年	福山教会（広島地区）
２０００年	松江教会（伯雲ブロック）
２００１年	向原教会（広島地区）
２００２年	笠岡教会（岡山・鳥取地区）
２００３年	翠町教会（広島地区）
２００４年	細江教会（山口・島根地区）
２００５年	岡山教会（岡山・鳥取地区）
２００６年	米子教会（伯雲ブロック）
２００７年	東広島教会（広島地区）
２００８年	萩教会（山口・島根地区）
２００９年	倉敷教会（岡山・鳥取地区）
２０１０年	観音町教会（広島地区）

日韓

三回目）の日韓カ

に平和を伝えるために、各

ヤー等もあって交流を深め

タ、釜山の学生達が一緒に過ごした一週間は参加者皆にとって大変思い出深いものとなり、これからの三姉妹教区、アジアの共同への出発点となったと感じた。

普段私達が日本であたりまえのように便利な生活を享受しているが、電気や水道もままらない生活をしていても、いつも笑顔で元気いっぱいのインファンタの学生達と共に過ごす日々は、日本の学生の皆さんにとっても本当に貴重な体験になると思う。

【お問合せ】
担当司祭　荻神父（岡山教会）
TEL 086-222-4093

岡山・鳥取地区

「早副（はやぞえ）神父さま、ありがとう！」

（岡山教会信徒代表　濱口直樹）

司祭叙階金祝（50年）ミサを9月23日、現赴任地の岡山教会で行い、長年の神父様のご奉仕に心から感謝し一緒にその歓びに浸りました。遠方は北海道・福岡など全国各地から五百人を超す参列者が駆けつけ、聖堂から溢れ、

中庭やホールに大型テレビを備えてのミサとなりました。

神父様は1926年福山市生まれ、1945年8月7日入市被爆、1947年長束修道院にて受洗。1952年東京カトリック大神学院入学、1961年広島にて司祭叙階、以後各地の小教区、神学院指導司祭・院長、広島地区地区長、司教総代理をされました。教え子の神学生は百人を超えるとか。「神様に選ばれたから神様がよいようにして下さる、と信頼して仕事をしている。自分の置かれた場所が神様から与えられた場所だと思っています」。腰を低くして申されます。これからもますますお元気で私たちを導いて下さいますよう、お願いいたします。

地区便り

広島地区

先月、各教会・各推進チーム代表（平和、きょうどう、養成）十数名が寄り集い、分かち合いの機会を持った（地区宣教司牧評議会、十月十七日）。宣教と司牧に関する司教宣言（司教宣言二〇〇六）以後の歩みを振り返り、これからどのように歩んでいこうとするのか、分かち合う、実り多い時間を過ごした。司教宣言の精神・方向性をしっかりつかんで、共同体の中で、共同体を通して、平和の使徒として働く召命を生きていこうと確認した。

そして具体的な歩みとして、㈠司教宣言の大黒柱（平和・養成・外国人との共生）を体験的に生きる場や時を積極的に創り、㈡教会間の交流、協働をもっと積極的に進めることにしようと確認しあった。きょうどう（共同、協同、協働）の根底に流れるものは、いと大いなる方の霊にほかならない。そのためにも、㈢キリスト者としての養成にしっかり取り組んでいく。

山口・島根地区

FIRST FILIPINO'S COMMUNITIES 開催

十月三日（日）山口カトリックセンターに於いて、山口・島根地区第一回フィリピン人の集いが行われた。

サポーターも含め八十名近くが参集。当日のテーマは「すべての子どもたちの幸せのために」。

フィリピン人スティーブ神父様によるお話とミサ、父親、母親、子ども、それぞれの立場からの体験談←

海峡からの風 20

下関労働教育センターだより

センターで「韓国併合条約は無効だった？」というテーマで、市民フォーラムを開催しました。●今年は日本が韓国を強制併合して百年の節目を迎えます。日本が韓国と国交を回復した一九六五年、日本は植民地支配を「正当かつ合法」と主張していましたが、九十五年の村山談話によって「不当だったが合法」という立場に変わりました。支配したことは良くなかったと、ようやく認めたのです。●条約が有効か無効かの本格的な議論が始まったのは一九九八年で、実は最近のことなのです。二〇〇一年から〇七まで国際会議も開かれて、歴史学・国際法学の観点から議論が交わされました。●学説として有効・無効のいずれかが定説とはなっていませんが、その後の研究成果などにより、無効説が説得力を持つようになってきました。●このような議論について、「今さら無効だったと解っても、何の意味があるのか？」という人もいますが、事実というものはきちんと認識されないといけないと思います。日本人の多くは植民地支配を不当だったと認識しているようですが、当時の日本は国際法の定めに反してまでも、朝鮮を日本のものにしておきたかったということは知っておくべきだと思います。●日清戦争も日本軍の王宮占拠から始まりましたし、日本の意に沿わない王妃も虐殺しています。そのような強圧的な行動の一つに、日韓議定書から併合条約までの強制があったのです。「第二次日韓協約」では伊藤博文は王宮に軍隊を率いて、締結を迫り、拒む大臣に「駄々をこねるなら殺ってしまう」と恫喝しました。●このような史実を前に未だに「合法」と言い続け、個人補償から逃避する日本政府に、主権者の私たちも責任の一端があります。

（細江教会・廣崎リュウ）

JICaRM広島便り

南米出身の信徒と関わって早や十八年②

三原教会　アルナルド・ネグリ神父

前号で述べましたが、残念ながら日系南米出身信徒の親世代の信仰は確固としていない。例えば、せっかく子どもに幼児洗礼を授けてもらってもその後の信仰教育を施さない。そこで、私は子ども世代に信仰を根づかせることに力を注ぐことにした。

ところが、従来の日曜学校に子どもたちを誘ったが長続きしなかった。そこで子どもたちを惹き寄せるのに「遊び」から始めてみた。もよりの公園でキャッチボール・動物園・キャンプ・スケート、スキーや雪山・海やプール・ピクニック・遠くの大きな公園など、季節に合わせての遊びが子どもたちは大好きだ。たっぷり遊んだら教会に戻ってくる。そして神様や聖書のお勉強をし、ごミサで締めくくってきた。

ちょうど二〇〇二年から土曜日も学校が全休になったからこの方法は成功した。シスター春日がいつも手伝って下さった。両親が仕事に出て家に残った子どもたちを車で迎えに行き、ごミサの後は必ずまた家まで遠く送り届けてくれた日本人信徒さん達のサポートもありがたかった。

せっかく教会に馴染んで受洗や初聖体のお恵みに与った子どもたちが中・高校生になると部活などで教会から再び遠のく傾向が気がかりだ。また、子どもを教会に来させる協力をもっと両親にしてもらうにはどうしたら良いか、などの課題が今も尽きない。

中でも、全国的な傾向として、新興のプロテスタント教会が就職の世話をしてくれるからなどの理由でカトリック信徒がそこに流れている実状を私は憂慮している。つまり、カトリックの両親たちが決して信仰につまずくことがないように配慮しなければならないと思う。やっと教会に通い始めた人が維持費や高い結婚式・葬儀の費用を求められ払いきれない恥ずかしさで教会から遠のくことがあってはいけない。

両親と子どもたち、揃って安心して来てください。私はこれからも子どもの笑顔に会うのを楽しみに待っています！（完）

の発表、いずれも感銘深いものがあった。

有志による手作りカレーほかのごちそうをいただき、ゲームあり、ダンスあり、それにカンガス神父様お得意のマジックありと楽しい一時を過ごせたことに感謝。

「See you soon」と次回を約束して帰宅した。

広島教区の施設⑨

山陰唯一のミッションスクール　松徳学院中学校・高等学校

松徳学院は松江市南部、市内を見晴らす床几山の南麓にあります。周囲は閑静な住宅地で、緑豊かな環境に恵まれ、中学高校の六学年男女三百五十人余りが元気に学んでいます。

松江市が国際文化観光都市を宣言した昭和三十年に女子中学高等学校を誘致して以来五十五年、少子高齢化社会に対応し、男女共学として再出発して六年、現在は凡そ七割が女子、三割が男子です。

設立母体はスペイン発祥で本部をローマに置く教育修道会のイエズス孝女会です。今年十月には創立者カンディダ・マリアが聖人に叙せられました。ヨーロッパ・ラテンアメリカなど世界の姉妹校で祝賀行事がありました。アジアでは台湾・フィリピンに姉妹校があり、本校とは交流学習を通して連帯を深めています。

男女共学化に伴い、部活動の振興にも力点を置きました。女子バドミントン、女子バスケット、男女空手道、男女卓球の体育系部活動では着実に成果を上げ、県代表として中国地区あるいは全国大会に連続出場しています。また、県高校総体では中小規模校の部門で、三年連続で男女総合優勝しています。

他方、文科系では合唱・吹奏楽が小編成ながらレベルが高く、また茶道や邦楽（箏曲・三味線）がユニークな部として学校内外の文化的行事に積極的に参加・貢献しています。部活動の活性化は学校全体の活性化につながり、学業・進学面でも国公立大学や難関私立大学への合格者が着実に増えてきています。

学校六日制に戻して六年目です。中学では一週間に三十五時間の授業と放課後学習（グループ別補習）を通して、先取り学習をすると同時に、「学び直し」が必要なところにはきめ細やかに指導をしています。高校のアドバンスコースは週三十九時間で高進度の授業を展開しています。

今年は耐震補強工事を完了し安全安心な環境が整いました。創立者の列聖を祝うことができた喜びを元に、これからの十年を見通して更に刷新を図っていきます。

青少年の活動

広島地区青年黙想会

広島地区青年会では、九月二十五日から二十六日、一泊二日の日程で青年初の黙想会を行いました。長束黙想の家で行った今回の黙想会、テーマは「ニケア・コンスタンチノープル信条を考える」です。三宅秀和神父様（イエズス会）のご指導のもと、教会に集う私たちが信じていること、それは具体的に何なのかをこのニケア・コンスタンチノープル信条を通して学び、私たち一人一人の信仰生活の土台にしていければとこのテーマを考えました。

三宅神父様のお話は、ニケア・コンスタンチノープル信条の時代から現在の教会の教えまでの大きな歴史を追い、その中でも特に第二バチカン公会議の内容について触れられていました。第二バチカン公会議がいかに革新的な会議であったのか。そして、私たちが祈る時のポイントまでも教えていただきました。

広島地区青年会として活動を始めて、半年が過ぎました。地区青年会では色々なことを考えて行事の企画をしています。黙想会というとまじめなイメージですが、今回は、忙しい毎日の中でゆっくり休んで自分自身を考えることを目標にしました。

今回の参加者は八名。少し寂しい気もしましたが、各々貴重な時間を過ごせたのではないかと思います。黙想会に初めて参加する青年もいましたが、神父様のお話も親しみやすく、シスターや修道院の神父様方にも親切にしていただいて良い経験になりました。

講話のようす

第十九回ネットワークミーティングｉｎ札幌

十月九日から十日、北海道・支笏湖ユースホステルで「第十九回ネットワークミーティングｉｎ札幌」が開催されました。参加者は、百八名。全国各地から青年、聖職者が集いました。

今回のテーマは「タアタアンワ」。アイヌ語で「ここにいる」という意味です。

北海道の大自然の中で、自然を感じるプログラムや班ごとの分かち合いを行いました。班ごとに一時間ほどかけて湖の周辺を散策しました。大会の日は、あいにくのお天気で雨の支笏湖でしたが、その雄大さには心が和みました。また、自分の気に入った落ち葉を拾ってしおりにしてもらうなど、スタッフのおもてなしの心も嬉しくなりました。

分かち合いでは、テーマの「ここにいる」ということを中心にお互いの経験や意見を話しました。「神様がここにいると感じたことってありますか？」という質問は、各々の経験を聞くことができて興味深かったです。

みんなで食べる食事も食事係のスタッフが一生懸命作ってくれた北海道の味覚が満載でした。

今回、ゆっくりとした時間と雄大な自然の中で、神様との関係を見つめ直す良い時間を過ごすことができ、神様が「ここにいる～タアタアンワ～」とたくさん感じることができました。

ネットワークミーティングは毎年二回開催される全国の青年の集いです。次回（来年二月）は横浜教区が会場になります。全国の青年のパワーを感じることができるネットワークミーティングに、広島教区からもたくさんの青年に参加してほしいと思います。

（幟町教会・西川　葉）

風紋

私が担当している六ページの連載記事の「海峡からの風」が今号で二十回目となりました。教区内の方々をあまりよく知らない私は、筆者はどのような方なのだろう、と常々思っていました。メールでは何十回と交信しているのですが。

先日ようやく願いがかない、服部編集長をはじめ、編集担当の皆さんと下関へ行き、本物の「海峡」を見ながら「海峡からの風」の今後について相談ができました。筆者の廣崎さんが経営するお店の美味しい料理をいただきながら・・・。

廣崎さんには初めてお目にかかったのですが、旧知の人のように感じました。実際にお会いすることでメールでは全く分からなかったお人柄や考え方も分かりました。バーチャルな世界ではなく、リアルに会って話をすることの大切さを実感しました。「海峡からの風」がどう変わるのか、ご期待ください。（ＫＹ）